



SENIORFINANCES

SPECIALIZING IN INVESTMENT MANAGEMENT AND ASSET PRESERVATION
FOR MATURE INVESTORS

COSMO FINANCIAL GROUP
HARUHIKO HARRY NISHIDA

NOVEMBER 2004

HSA (Health Savings Account)

- タックス・フリーで貯める貯金口座 -

Health Savings Account - 連邦政府が 2004 年 1 月 1 日付けで発布した新しいタイプの個人の銀行預貯金口座のことです。医療費や引退者のかたの健康維持費用に無税で使えるようにするためです。有資格者なら、個人、企業を問わず、HSAに預金した額は、税金控除の対象になります。さらに、その利息も“税金繰り延べ”され、もし適格医療費用に使えば、HSAに貯まったお金は、“Tax Free”で使えるというものです。但し、この HSA は、“HAS - Compatible High - Deductible Health Plan” (HDHP) という健康保険プランとペアになっています。

下の比較表を参照ください。

	今までの健康保険	新しい HDHP と HAS のプラン
プランの内容	家族の年間免責額: \$ 1,000 Coinsurance: 80/20	家族の年間免責額: \$ 5,100 Coinsurance: 無し
年間保険料	\$7,115.00	\$3,100.00
医療費の自己負担額	\$1,650.00	\$2,050.00
\$ 1,500 の治療費がかかった場合:	\$ 1,000 の免責負担と \$ 100 は 20% の自己負担額 \$ 550 の保険でカバーしない医療費	\$ 1,500 は免責額以内のため、 \$ 550 はその他の適格医療費 なので HAS から支払う。
年間健康保険料と医療費の合計支出額	\$8,765.00	\$5,150.00
HAS に最高適用額の \$ 5,100 を預金した場合の節税額(28%の課税率)	\$0.00	\$1,428.00
実質出費額(節税額を差し引く)	\$8,765.00	\$3,722.00
一年で節約した金額	なし	\$5,043.00

* HAS には、まだ \$ 3,050 の残高があります。*

[長所]

- HSAへの預金は、税金控除ができます。
- IRAのように利息は、課税対象にならず、引き出すまで税金は繰り延べされます。
- 高額免責の健康保険ではカバーされない医療費(Qualified Medical Expenses)のために使うことができ、しかもタックス・フリーです。
- HSA口座に貯まっている残高はその年に使わなければ、翌年に繰り越されます。

[資格]

HDHP(高額免責健康保険プラン)に加入している 65 歳以下の個人、あるいは、グループ・プランがHDHPであれば、HSAをオープンすることができます。もし、他の健康保険に入っている場合は、無資格になります。

適格医療費用 (Qualified Medical Expenses)とは？

適格医療費用 (Qualified Medical Expenses)

- 処方箋薬 (避妊用ピルを含む)
- 定期健診
- 診察料や検査、X線、その他の医療サービス
- 健康保険の自己負担額とデンタル・プラン
- 歯科レントゲン、矯正、その他の歯科治療
- めがね、コンタクト、コンタクトの洗浄液など
- メディケア・パートAとBの費用
- 長期介護の費用や保険料
- 65歳以上の引退者の医療費用

注：適格医療費用以外に使うと、10%のペナルティとインカム・タックスがかかることがあります。

【仕組み】

- ▶ HSAを開くためには、まず、ハイ・ディダクティブル(高免責額)の健康保険プラン(HDHP)に加入しなければなりません。もし、他にも健康保険プランがある場合は、無資格とみなされます。(労災保険や自動車保険の中の医療費保障は除く。)
- ▶ ハイ・ディダクティブル・プランとは？個人の場合、年間免責額が\$1,000以上で年間最高自己負担額が、\$5,000未満であること。また、ファミリー・プランの場合、年間免責額は、\$2,000以上で、最高自己負担額は、\$10,000未満という条件を満たしているプランです。
- ▶ グループ健康保険に入っている社員の方や個人経営の会社でも、ハイ・ディダクティブルプランに加入できます。
- ▶ 会社の保険に加入している場合でも、HSAは個人口座です。「ポータブル」なので、もしその会社をやめたり、健康保険プランを変えても自分のHSAは、ずっともち続けることができます。

- ▶ 毎年HSAに預金できる額は、次の何れかの内、低いほうの金額までと制限されています。
 - * 健康保険の年間免責額まで、あるいは、
 - * 個人の場合、\$2,600(55歳以上は、\$3,100)
 - * 家族の場合、\$5,150(55歳以上は、\$5,650)
- ▶ IRAのように、HSAに預金した金額は、個人の場合、税金控除の対象になり、企業の場合もカフェテリア・プランの一環なり、給料の一部として支給できますので、税金控除ができます。

ご存知のように、健康保険は免責額が高くなればなるほど保険料が安くなります。健康保険料が安くなった分をこのHSAに貯めると、その金額は税金控除ができ、利息はIRAのように“Tax Deferral”で、貯まっていきます。適格医療費用は、HSAから(無税で)支払えるので、予算が立てやすくなります。保険料として支払っていた一部分を“健康貯金”として貯めておくことによって、家族の健康維持のため有効に使えることができます。

【注意点】

HSAは、だれにでも簡単に開設できますが、誰にでも適しているとは限りません。検討される際、次のような点を考慮されるようお勧めします。

1. 小さなお子様のいる家庭では、医療機関にかかる頻度も多く、医療費も高くなる傾向になり、適さないかもしれません。
2. HSAを有効に活用するためには、大きな金額が必要となりますので、ひとによっては、高免責額が負担に感じるかもしれませんし、健康・医療経費の予算をしっかりと把握しておくことが必要になります。
3. 65歳以上になると、HSAへの預金はできなくなりますが、Medicare Supplement Insurance(メディケア補足保険)以外なら、HSAから医療費に使うことができます。

最後に、一言、若い方や、健康でほとんど医者にはかからないという方、また、免責額くらいは、たとえそれが高額であっても、すぐに払える余裕があるという方などは、検討してみる価値はあるでしょう。税金控除ができ、無税で引き出せる預金口座など、

どこを探してもほかには見当たりません。一度この機会に健康保険料を含む医療・健康維持費用の見直しをされてはいかがでしょうか。

詳しい情報をお知りになりたい方は、アンケート用紙をお送りください。または、お電話でご相談ください。

リビング・トラスト

最近では、多くの方がすでにリビング・トラストを持っていらっしゃると思います。リビング・トラストは、残された家族が複雑、かつ煩雑なプロベイト・プロセス(検認手続き)に煩わされることなく遺産相続できる方法のひとつですので、エステイト・プランニングの一里塚です。しかし、リビング・トラストを作成されたものの、もうこれで安心とそれっきり放置して居る方も多いようです。事実、大きな失敗を犯していても気づかないで、多大な損失になることもあります。

失敗その1: 財産を相続人(多くの場合、子孫)に即刻完全譲渡する。この場合、その相続人は、その財産を自由に使うことができるため、債権者の担保として取られることも少なくありません。相続人がまだ若くて、いろんな意味で経験が浅い場合、トラストの中で相続人の財産を管理することによって、上記のような危険から相続人を守ることができます。さらに、トラストの中においておくことによって、相続人の財産には入らないので、2重に相続税が課せられるのを回避できます。

失敗その2: バイパス・トラストの設計ミスによる財産の損失。一人目の配偶者が逝去されたときに、その配偶者の財産でバイパス・トラストがつけられます。ほとんどの方は、どの財産をそのバイパス・トラストにあてて、どのように管理すべきかということには、あまり考慮されないようです。バイパス・トラストの財産は、2つの重要な点に気をつけるべきです。それは、できるだけ早く増えて、課税されないものであるという2点です。実際、次のような“失敗”例をよく耳にします。

残されたほうの配偶者は、生活費の足しになるようにと思い、バイパス・トラストの財産を「インカム・アセット」と言われるもので運用し、同時に自分の財産(家や株など)は、どんどん価値が上がり、相

続税の非課税額以上になってしまうというケースです。これでは、せつかくのトラストもあまり意味がありません。自分の財産は、相続税の非課税限度額以下のレベル(2004年度は150万ドル)になってもいいのです。反対に、バイパス・トラストに入れる資産は、大きく増やす/増えるようなものにすべきなのです。

バイパス・トラストの最良の使い方は、「イレボカブル・ライフ・インシュランス・トラスト」として使うことでしょう。このような設計で受け取る生命保険金は、数倍にもなって、完全に無税で相続できるのです。

失敗その3: “Successor Trustee”(自分あるいは配偶者の死後、引き継ぐ受託者のこと)の間違った選択。ほとんどの親御さんは、自分の代わりの後継者(この場合、トラスティーの後継者)に子供、あるいは、自分の子供たち全員を選択されるケースをよく見受けられます。一見、公平に見えて、実は、以外と問題の種になることがよくあります。兄弟や姉妹間の気持ちの行き違いや、感情のこじれ、また誤解などで、思わぬ大きな経済的損失にもなりかねません。弁護士や会計士または、銀行の信託部門など、トラストの専門知識が豊富で経験のあるトラスティーを選択されるのが賢明でしょう。

こんな病気になると

保険でカバーしない?

アルツハイマー
パーキンソン氏病
ストローク
骨粗しょう症
神経痛

MS (Multiple Sclerosis)

ALS (Amyotrophic Lateral Sclerosis)

メディケアや一般の健康保険では、これらの病気にかかったとき2、3日の入院費や治療費くらいはカバーしてくれるでしょう。しかし、実際に必要な費用は、ほとんどカバーされないというのが現状です。ストロークで半身不随になってしまったとき、買い物にいたり、食事を作ったりしてくれる人が必

要になってきます。人を雇った場合、この費用は大きな負担となり、リタイアメントの生活設計に大きな影を落とします。さて、どこから支払えばいいのでしょうか？メディケアは、もちろん支払ってはくれません。

体が不自由な神経痛を患っている人は、お掃除や用を足して貰う為には、誰かにたのまなければなりませんし、脳梗塞で倒れたら、身の回りの世話をしてもらうための費用は、保険で支払ってくれるのでしょうか？メディケアは、カバーしてくれません。

私たちの医療システムは英語で、“Acute Care Medical System” と呼ばれるシステムです。数日間の入院、または手術や短期薬剤療法によって完治する病気（がんや振動疾患等）であれば、メディケアやメディケア・サプリメント保険でカバーされていますので、自分の持ち出しはほとんどありません。しかし、運悪く、もし長期の慢性的疾病に冒されたら、上記に挙げたような費用のほとんどすべては、自分で支払わなければなりません。

選択は、二つに一つです。このような事態に備えてロング・ターム・ケア保険をかける方法、又は自分でリスクをとって自分の財産から支払うという方法の 2 つです。確信を持って言えることは、長期介護が必要となるような病気を患った人は、保険をかけておいてよかったと感謝されこそすれ、文句を言う人は誰もいません。

LTCプロテクション 3 つの方法

1. 毎月あるいは一年に一度払いで保険料を生涯支払い続ける。（自動車保険や火災保険のように保険料は掛け捨てになる。）
2. 一括払いで最初に保険料を払い込み、あとは保険料の払い込みはしない。
3. 一括払いでアニュイティーを購入し、そこから一年に一度保険料を支払う。（上の 1 番の方法をアニュイティーで資産を運用しながら、保険料を支払っていく。）

詳しい情報をお知りになりたい方は、同封のアンケートを記入し、お送りください。

Happy Thanksgiving Day!



COSMO FINANCIAL GROUP

25500 Hawthorn Boulevard, Suite 1130
Torrance, California 90505

Tel: (310) 373-2280 (日本語)

Fax: (310) 373-6433

Email: cosmofinancial@msn.com

